

エコーへと変化した。悪性を疑い当院外科にて手術を施行し、胃平滑筋肉腫と診断された。症例2, 64歳, 男性。胃粘膜下腫瘍が認められ経過観察していたが, 51カ月後には18mm から50mm へと増大し, 手術施行。胃平滑筋肉腫と診断された。2例とも超音波による経過観察が有用であった。

11. 術後13年目に巨大な肝転移を認めた胃カルチノイド腫瘍の1例

服部祐爾, 土屋正一, 石原 武
斎藤正明, 佐藤重明 (鹿島労災)
首藤潔彦, 福長 徹, 徳元伸行
久賀克也 (同・外科)
岩瀬裕郷 (同・病理)

症例は56歳女性。昭和56年胃カルチノイド腫瘍のため手術歴あり。術後無症状に経過していたが13年目に検診にて肝腫瘍を指摘され精査にてカルチノイド腫瘍の巨大な単発性肝転移と診断され手術を施行した。

カルチノイド腫瘍では肝転移を認める症例でカルチノイド症候群を呈するものがみられ転移巣が大きいものほどその頻度が高いとされているが, 本症例においては同症候群は全く認められていなかった。

12. 急性腹症で発症した異所性子宮内膜症の1例

更科由紀, 加藤佳瑞紀, 北 和彦
五月女直樹 (国立横浜東)
十川康弘, 雨宮邦彦 (同・外科)
上杉健哲 (同・産婦人科)
近藤福雄 (千大・二病)

本邦では13例しか報告のない, 虫垂子宮内膜症の1例を報告する。症例は, 50歳, 女性。4年前より, 時にみられた右下腹部痛が, 突然に強度となり当院を受診。外科手術を施行した。術後病理診断で本症と判明。子宮内膜症の診断は, 術後診断としてなされることが多いが月経周期と関連する症例では術前にも可能であり, 本症を疑い積極的な腸管の精査が必要である。

13. 前立腺癌の治療中に大腸癌, 十二指腸癌のみられた三重癌の1例

池内 哲, 光永裕子, 小山秀彦
長門義宣, 高橋 淳, 仲野敏彦
野口武英, 伊藤文憲, 大野孝則
(船橋中央)
脇坂正美 (同・泌尿器科)
大久保春男 (同・病理)
近藤福雄 (千大・二病)

症例は71歳男性, 90年3月, 前立腺癌の診断を受けその経過中の92年3月に大腸癌, 93年4月には十二指腸癌が相次いで発見され, 異時性三重癌と診断された。さらに剖検所見においてもそれが確認された。近年, 高齢化, 診断技術の向上, また剖検症例の詳細な検討等により重複癌の報告件数が著増しており, 高齢の担癌患者については, 常に重複癌の存在の可能性を念頭において検査を進めていくべきであると思われた。

14. 微小回盲部潰瘍で発症した腸結核の1例

梅澤正美, 黒澤孝光, 崔 世浩
田口忠男, 岩間章介, 石原運雄
(千葉労災病院)
今野暁男 (同・病理)

今回, 我々は, 微小回盲部潰瘍で発症し, その診断に苦慮するうちに, 肺病変の出現と腸病変の進展により診断に至り, 形態的変遷を追い得た腸結核の一例を報告する。本症例は腸結核の感染経路にも示唆を与えると考えられる。

15. 横行結腸 Desmoid の1例

谷嶋隆之, 村手秀子, 梅原敬司
辻村秀樹, 金沢正一郎
(石橋総合)
神谷尚志 (昭和大・豊洲病院)

われわれは横行結腸デスマイドという稀な疾患を経験したので報告する。症例は68歳女性で腹部腫瘤を主訴に受診。血液検査上異常を認めず, 超音波検査, CT, MRI, 腹部血管造影にて境界明瞭, 手拳大の腹部腫瘤を認めた。針生検では平滑筋腫が疑われ, 手術施行。摘出した腫瘍の組織像より横行結腸由来のデスマイドとの診断を得た。本症例は大腸腺腫症の合併はないが, 開腹術の既往があり, 関連性が示唆された。